

社団法人 日本循環器学会
2008年度第1回理事会議事録

日 時 2008年(平成20年)6月27日(金) 14時30分～17時00分

場 所 東京国際フォーラム ガラ棟 6F(602)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、小川久雄、北 徹、児玉逸雄、坂田隆造、島田和幸、
島本和明、下川宏明、高本眞一、鄭 忠和、友池仁暢、永井良三、堀 正二、堀江 稔、
松崎益徳、水野杏一、室原豊明、山岸正和

欠席：土居義典

その他出席者

監事：青沼和隆、今泉 勉

幹事：池田 義、大津欣也、白山武司、近森大志郎、西垣和彦、野原隆司、藤田正俊、
松森 昭、南野哲男、木村 剛、西英一郎

オブザーバー：村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局：加藤安雄(事務局長) 清水光則(事務局長代理)

議事

第1号議案 2007年度事業報告

第2号議案 2007年度決算報告

1) 2007年度決算報告

2) 監査報告

第3号議案 新入及び退会会員の承認

1) 新入会員承認

2) 会費未納による退会会員の承認

第4号議案 各委員会の組成について

第5号議案 委員会報告及び検討事項

1) 財務委員会

2) 総務委員会

3) 国内交流委員会

4) コメディカル委員会

5) 健保対策委員会

6) 編集委員会

7) 国際交流委員会

8) 情報広報委員会

9) 教育研修委員会

10) 禁煙推進委員会

11) 循環器救急医療委員会

12) 心臓移植委員会

13) 専門医制度委員会

14) 専門医編集委員会

- 15) 学術委員会
- 16) 学術集会運営委員会
- 17) 用語委員会
- 18) 医療安全・医療倫理委員会

第6号議案 年次学術集会に関する件

- 1) 第72回年次学術集会報告
- 2) 第73回年次学術集会報告
- 3) 第74回年次学術集会報告

第7号議案 その他

- 1) 第76回学術集会の会長選出予定について
- 2) ICD 専門委員推薦の件
- 3) 疑義解釈委員会委員推薦の件
- 4) 日本医学会評議員選出の件
- 5) 理事会日程確認

議事の経過及び結果

- 1) 定刻に、小川理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第73回堀会長と第74回北会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の16名の物故会員に対して黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

第1号議案 2007年度事業報告

藤田総務幹事から2007年度事業について資料に沿って説明があり、承認された。

第2号議案 2007年度決算報告

1) 2007年度決算報告

野原幹事より、5会計の決算案について、配付の「収支決算説明書」に沿って説明がなされた。

特に、一般会計では『循環器学用語集』の出版費用として基金を使用したことにより、正味財産が減少したこと。

専門医特別会計では、収支均衡化を図るための諸策費や投資活動費等により、予算をオーバーしてマイナスとなったこと。

学術集会特別会計は、第72回学術集会の継続事業として「学術集会運営引当預金(51百万円)」を設定したこと。

支部特別会計及び地方会特別会計では、一部マイナスの支部があるものの、いずれも予算対比プラスとなったこと。

全体的にはプラス決算となり、会員限定HPに「決算Q & A」を設ける予定でいることや今年からキャ

ツシュフロー計算書が財務諸表に加わったことの説明がなされた。

また、年次学術集会に関し、会長事務局で必要となった資料にある什器備品(資産物件)を第72回会長へ寄付することについて、了解され、決算案と合わせて承認された。

なお、学術集会運営引当預金(51百万円)の用途については、若手会員の留学支援事業(20百万円)、アジアからの学術集会参加者支援事業(31百万円)とし、それぞれ、国際交流委員会、学術集会運営委員会にて細則を作成、いずれも、毎年可能な範囲において継続的に資金の補充をしていくことが了承された。

加えて、BLS/ACLSのインストラクター謝礼について、見直しを行うべきではないかとの意見があった。

2) 監査報告

今泉監事より、2007年度の財務諸表及び収支状況について、正しく示していること、また、事業及び理事の職務執行について、真実であり、不正の行為等はない旨報告があった。

第3号議案 新入及び退会会員の承認

1) 新入会員の承認

藤田総務幹事から、2008年2月1日から同年3月31日までの2007年度新入会員291名および同年4月1日から同年5月31日までの2008年度新入会員154名が資料に基づいて説明され、承認された。

2) 会費未納による退会会員の承認

藤田総務幹事から、2006年度及び2007年度の二年間にわたって会費が未納である会員281名が資料に基づいて説明され、定款の定めに基づき、これらの会員の退会が承認された。

また、ここ数年の会員数の動向に関して報告があった。この数年は毎年400名程度ずつ増加しており、総会員数は24,000名に近づきつつある。

第4号議案 各委員会の組成について

議長から、2007～2008年度の各委員会の組成について資料の通り報告があり、承認された。

第5号議案 委員会報告及び検討事項

1) 財務委員会

北委員長より以下の通り報告があった。

基金管理細則に基づき、基金設定されている各賞金の2007年度末残高が報告された。

収支バランスを保つために、予算管理を一層徹底するよう各委員会委員長に協力を求められた。

また、以下の点について討議の依頼があった。

CJ.Vol.73及び『循環器専門医』Vol.17等機関誌の販売価格について、資料にある現行通りの価格を提案された。

以上について承認された。

2) 総務委員会

小川委員長から以下の通り報告があった。

新公益法人制度への移行に関して、規約審議部会で検討している。移行申請の時期については、税務優遇措置等、また他学会の動向も踏まえて検討する。移行申請には定款の変更が必要であり、公益法人制度の問題に絞った臨時総務委員会を秋に開催して議論する予定である。

専門医に関する罰則規定について、総務委員会においても意見交換を行った。

日本心臓財団の佐藤賞について、平成 21 年度から副賞が 250 万円となる旨、先方から通知があった。

高安賞・八木賞については、名前のついた賞は原資が無くなった時点で終了することとした。

開催会場手配等の関係で、今後は 3 年後の会長を選出することとした。これを受け、次回の理事会で第 76 回の会長を選出する。なお第 76 回総会の開催年度は WCC の開催と重なる可能性があり、その場合は京都が開催場所となる。この前提にて、情報を収集しつつ作業を進めていく。

以上について、承認された。

3) 国内交流委員会

島本委員長から以下の通り報告があった。

ICD-CRT 研修制度について、日本不整脈学会・日本心不全学会及び当学会にてワーキンググループを組織し、意見交換を行った。歴史的経緯および現状を踏まえ、三学会及び外科系の学会を加えて新たに協議体を組織し、そこで運用について検討する方向で意見をまとめ、各学会に持ち帰って検討することとした。この件については、今年度内に結論を出すべく進めている。

業者立会いの問題について、暫定措置の状況についての調査および有償化に向けての会員の啓蒙活動を進めていく。

日本医学会から総会テーマに関するアンケートがあり、理事及び委員の意見をまとめて回答した。

以上について、承認された。

関連して水野理事から、ステントグラフト実施基準管理委員会の NPO 法人化に関して当学会の承認を頂きたい旨審議の依頼があった。検討の結果、法人化すると学会が関与できなくなるのではないかという意見があり、今回は継続審議とし、日循理事会での意見を先方に伝えることとした。

4) コメディカル委員会

水野委員長から以下の通り報告があった。

日本臨床工学技師会から依頼のあった「臨床ペースメーカー・ICD 技術認定士制度(仮称)」への後援について検討した。この認定は単独の学会が行うものであり、特定団体のみを後援するのは望ましくない。ただカリキュラム構想等についての協力は行うこととした。

以上について、承認された。

5) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の通り報告があった。

日本心臓病学会保険及び新医療対策委員会から、本学会健保対策委員会と合同開催したい旨の依頼があり、今回から常時合同で開催することとした。

平成 20 年度診療報酬改定について、改定後の影響調査を行っている。改定に係る問題点のうち、MDCT の施設基準および四肢の血管拡張術に関して要望書を提出した。

薬理作用に基づく薬物の適応外使用について、日本医師会を通じて意見・要望を提出した。
以上について、承認された。

6) 編集委員会

下川委員長より以下の通り報告があった。

2008年度編集委員会のメンバーとして、Associate Editor30名、Editorial Board80名、International Advisory Board29名が紹介された。7月1日より新メンバーによる編集作業を開始する。

前任の松崎益徳委員長の方針を踏襲し、更なる journal の発展を目指す。引き続き、掲載論文の上限を30編/号とするが、採用から掲載までの日数が約120日と伸びてきているため、今年度後半からは採択率を下げ、日数の短縮を目標とする。

2007年のImpact Factorは2.373であった。今後更に上昇させることを目指し、他誌への投稿の際にはCJから引用していただくよう呼びかけていく。

表紙デザインやレイアウトについて、2009年1月号から刷新する予定である。

以上について、承認された。

7) 国際交流委員会

鄭委員長から以下の通り報告があった。

WHF年会費が物価上昇により2008年分から3%増額される。

2009年1月から2年間の任期でWHF Vice President ElectにMs. Susanne Volqvartz、President ElectにDr. Sidney Smith Jrが就任する。

国際留学生YIAについて、年度をまたがって優秀賞と最優秀賞を受賞している応募者がいたことが報告され、応募資格に「過去に本賞の最優秀賞を受賞していないこと」を加える。

JCS2009で表彰する国際名誉会員として、アメリカからDr. Anthony N. DeMaria、Dr. Jamil Tajik、ヨーロッパからDr. Karl Swedberg、アジアからDr. David Kellyを認定する。

国際名誉会員が年次学術で招待講演を行った際、謝金として2000ドルを支払いたい。

以上から について承認され、 は学術集会運営委員会で審議されることとなった。

8) 情報広報委員会

坂田委員長から以下の通り報告があった。

英文ホームページのリニューアルについてコンテンツの内容が承認され、9月半ばにはリリースされることになった。

第2回プレスセミナーは「日本人の心筋梗塞」をテーマに開催されることが承認された。日程については9月の最終日曜の世界ハートの日になみ9月26日前後で行うこととする。また、座長については小川久雄先生にお願いすることとする。

以上について、承認された。

9) 教育研修委員会

堀江委員長より以下の通り報告があった。

循環器研修ビジュアルシリーズの2002年度製作分の改訂版を2008年度中に製作することとなった。

7月6日(日)に大阪にて木原康樹委員がワーキンググループのリーダーとなり「第4回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー」を開催する。

第73回学術集会での教育セッションに組み込まれたライブ・デモンストレーション企画について委員会で審議し、第1日目に5時間の枠でビデオ・ライブを行うこととなった。

日本心臓財団発行のハートニュースの企画担当者を当委員会から指名しているが、2008-2009年度は萩原誠久委員を指名した。

以上について、承認された。

10) 禁煙推進委員会

室原委員長から以下の通り報告があった。

日本循環器学会、日本肺癌学会、日本癌学会の3学会で製作した「禁煙治療のための標準手順書」を改訂した。新たに承認された禁煙補助剤バレニクリンの情報を追加し、第3版として2008年4月18日に学会ホームページ上で公表した。

禁煙ガイドブック「PASSPORT to STOP SMOKING」を改訂した。新たに承認された禁煙補助剤バレニクリンの情報を掲載し、第3版として2008年6月から販売している。50部単位で購入可能なので、禁煙の啓発活動にご活用いただきたい。

以上、承認された。

11) 循環器救急医療委員会

小川久雄委員長より以下の通り報告があった。

7月11日(金)に循環器救急医療委員会を開催し4つの小委員会の活動方針について確認する。

JCS-ITCのコーディネーターを笠貫宏先生から野々木宏先生に交代した。

以上について承認された。

12) 心臓移植委員会

島田委員長から以下の通り報告があった。

2008年5月31日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。心臓移植は15歳未満2名を含めて54名に実施されている。

長い間見送りとなっていた臓器移植法案が、今秋の臨時国会で通過する見込みが出てきており、関連学会と協力して国会議員への要望をより強く進める。

心臓移植の適応判定について、適応検討小委員会と現場の移植実施施設それぞれの立場で考え方の相違がみられるため、意見交換して理解を深める。

第5回心臓移植セミナーを臓器移植法の改正を目途にして、第73回学術集会期間中に開催する予定である。

心臓移植に関連する学会・協議会への代表委員については資料のとおりである。

以上、承認された。

13) 専門医制度委員会

土居委員長が欠席のため、近森幹事から以下の通り報告があった。

第 73 回学術集会で開催される「医療安全・医療倫理に関する講演会」の専門医研修単位を 2 単位とする。

会費未納による退会により専門医資格を喪失した循環器専門医 1 名より、専門医資格復活の嘆願書が届いた件について、1 回に限り認めることとなった。ただし、残りの専門医認定期間内で更新に必要な単位を充足することと会費未納期間は専門医として認めないことを条件とする。

循環器専門医罰則規程について、循環器専門医制度規則にある罰則を改定および罰則施行細則を作成することとなり、罰則については第 9 条が資料のとおり修正され、「その決定事項は、理事会にて報告し承認を得るものとする」ことが追記された。罰則施行細則については、細則（案）をもとに検討された結果、継続審議となった。

2008 年 3 月 31 日に循環器専門医資格不正取得に関する告発文が学会に届いた件で対象者の処分について検討を行った。資料の処分（案）について、処分を科すことについては承認されたが、処分内容については決定に至らなかったため、次回委員会、理事会までに調査委員会を発足し、事情聴取を行った上で、処分（案）について決定することとなった。結果は理事会で報告し承認を得た後、本人に通知する。

以上について承認された。

ただし、 の不正取得に関する対象者の処分については、学会としても迅速かつ慎重な対応が求められるため、次回理事会までに臨時で専門医制度委員会を開催し検討した結果を持ち回りで理事に報告し承認を得ることとなった。

1 4) 専門医編集委員会

友池委員長から以下の通り報告があった。

前回委員会議事録のとおり、「循環器専門医活動と現状」の記事依頼施設についての選出基準が見直された。また、原稿料についても資料のとおり増額となった。

循環器専門医誌 Vol.16 No.2 の発刊に向けて、現在資料のと通りの進捗状況である。また、2009 年 3 月に発刊予定の循環器専門医誌 Vol.17 の No.1 の掲載内容について決定した。

以上について承認された。

1 5) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

2003-2004 年度活動ガイドラインが 5 年目改訂に該当するため、次のとおり改訂を行うこととなった。

なお、全ての改訂版においては、活動開始時点(2009/4/1)で 65 歳以上の班長は交代、班員・協力員は原則継続とする

- ・ 禁煙ガイドライン：部分改訂、助成金 100 万円、班長は藤原久義先生から室原豊明先生に変更
- ・ 心臓核医学検査ガイドライン：部分改訂、助成金 50 万円、班長は玉木長良先生継続
- ・ 心臓突然死の予知と予防法のガイドライン：部分改訂、助成金 50 万円、班長は相澤義房先生継続
- ・ 心疾患患者の妊娠・出産の適応、管理に関するガイドライン：部分改訂、助成金 50 万円、班長は中澤誠先生から丹羽公一郎先生に変更
- ・ 循環器超音波検査の適応と判読ガイドライン：部分改訂、助成金 100 万円、班長は吉川純一先生から吉田清先生に変更

また、1998-1999年活動ガイドライン「24時間血圧計(ABPM)基準に関するガイドライン」については、部分改訂、助成金100万円、班長は継続して島田和幸先生に依頼することとなった。

2008年度循環器疾患診療実態調査に関する臨床研究データマネージメント業務は、昨年同様に財団法人国際協力医学研究進行財団に業務委託する。委託料は、昨年より50万円減額で¥2,600,000とする。

2007年及び2008年の循環器疾患診療実態調査について、資料のとおり実施計画書の報告があり、調査項目について今後充実させること、学術委員会事業として継続して行うこととなった。

当会後援の大規模臨床試験J-CHF事務局において、2008年3月29日をもって北畠顕主任から堀正二主任に交代があった事が報告された。また、JCARE-CARDとJ-TRACEについて、当初の申請通り2008年6月30日を以て試験終了の報告があった。

以上、承認された。

また、今後のガイドライン作成については、基盤となるガイドラインの作成はほぼ終了してきたため、第二ステージとして「保険適応とガイドラインとの整合性」を重視し、保険適用があれば追補する等、今後検討していくことが報告された。

16) 学術集会運営委員会

児玉委員長から以下の通り報告があった。

学術集会プログラム小委員会からプログラム委員会に名称変更となったため、学術集会運営委員会内規において該当箇所(第4条-2-9)を修正する。

第72回(福岡)の学術集会事後評価アンケートについて、資料のとおり報告があった。回答件数がセッションによって大幅な差がある。評価を公平化するため、次年度は、評価者に評議員250名+一般演題の査読者800名を対象とし、実施する。

八木賞(第75回にて終了)及び高安賞(第74回にて終了)の個人名称の賞については、原資終了以降は、実施しない。

財団法人循環器学研究振興財団理事長・内田康美先生から依頼の内田賞については、次の点において継続審議とする。

- ・個人名称を賞名称とするか否か
- ・副賞金額については、高額であるため再検討
- ・授与者は、他賞との統一を図るため、委員長が授与すべきもの

日本心臓財団「佐藤賞」は、第74回学術集会実施から副賞を250万円とする。

第73回学術集会において、国立循環器病センターから「循環器研究の進歩」セッションの継続依頼があり、「過去5年連続開催であるため」承認された。

以上、承認された。

17) 用語委員会

山岸委員長から以下の点について報告があった。

用語委員会の活動について、冊子発行後の改訂作業並びに使用を広めることを検討している。

新しい用語データが近々学会ホームページを公開される予定であり、それと同時に用語に関するご意見をいただくよう窓口を整える予定である。なお用語の修正・追加等については、まずホームペ

ージのデータを改訂し、必要に応じて印刷体での発行を検討する。
以上について、承認された。

18) 医療安全・医療倫理委員会

永井委員長から以下の点について報告があった

第73回学術集会時 第8回医療安全・医療倫理に関する講演会について、「厚生労働省 第三次試案」をテーマに識者を招いて開催する。担当は坂田隆造委員、代田浩之委員。聴講者に専門医資格更新に必要な単位が付与されるよう、専門医制度委員会に申請中。

外部機関からの医師推薦依頼、本委員会内規第6条に定められるもの以外の対応について。公的機関からの依頼には応じるが、それ以外からの依頼については基本的に推薦を行わない。

厚生労働省 医療安全の確保に向けた医療事故による原因究明・再発防止等のあり方に関する第三次試案について、日本内科学会・日本医学会からの意見伺いを受け、持ち回り理事会を開催し、資料の通り回答した。また、最終的に提出された、内科学会意見書について内容が確認され、今後、具体的事案が出される毎に議論していく。

以上について、承認された。

第6号議案 年次学術集会に関する件

1) 第72回年次学術集会報告

第72回学術集会松崎益徳会長から以下の点について報告があった。

会期を無事運営することができた謝辞が述べられた。

学術集会参加者について、総参加者16,582名(内、有料参加者13,546名)であった。

一般演題では応募数3,838題、採択演題数2,335題、採択率が約60%、英語発表66.7%日本語発表33.3%であった。海外からの一般演題応募数157演題、採択演題数70演題であった。

外国からの招聘者66名、コメディカルセッションでは、教育講演5テーマ、シンポジウム6テーマを企画し、一般演題333演題の発表があった。

会長企画として、韓国循環器学会と再生医学、心不全、心エコーについてのジョイントシンポジウムを企画、「医療従事者の過重労働を考える」「循環器疾患の先端医療と Translation research」「日本の循環器診療における先進医療の現状」「循環器医としてのCKDにどう対処するか」の特別企画を行った。

市民公開講座「健康寿命を延ばすために！～生活習慣病に打ち勝つ～」を3月30日にアクロス福岡で開催し、560名の来場があった。

ライブデモンストレーションについては、学術集会前日の3月27日に小倉記念病院で行った。危険性を伴うものや長時間に及ぶものについては、全てビデオライブとした。

学術集会事後評価として、プレナリーセッションおよびシンポジウムについて、評議員からアンケート収集し、今後のより良いプログラム企画検討の参考としたい。

継続事業金51百万円の内、「留学支援基金」として20百万円、「アジアのための学術集会参加者支援基金」として31百万円とした。

2) 第73回年次学術集会報告

テーマは「リスクに挑戦する循環器学 - 新たな展望と戦略」で行う。

資料のとおり、美甘レクチャー、真下記念講演、特別講演の演者については内諾いただいている。

プレナリーセッション 6 セッション、シンポジウム 22 セッション、ジョイントシンポジウム 5 セッションを開催する。ラウンドテーブルディスカッション、トピックス、コントラバーシー、ミート・ザ・エキスパート、モーニングレクチャーについても座長依頼を開始するところである。

ライブデモンストレーションについては、今回より教育セッションの 1 つとして取り上げ、ビデオライブで初日に 5 時間で開催する。

市民公開講座は学術集会 3 日目、禁煙市民公開講座は学術集会 1 日目を予定している。

第 73 回学術集会記念バッチを準備した。

3) 第 74 回年次学術集会報告

第 74 回学術集会北徹会長から以下の点について報告があった。

会期は 2010 年 3 月 5 日～7 日、国立京都国際会館、グランドプリンスホテル京都で開催する。

メインテーマやコンセプトについては、未定である。

運営会社については日本コンベンションサービス関西支社に依頼する。

第 7 号議案 その他

1) 第 76 回学術集会の会長選出予定について

議長から、第 76 回学術集会の会長選出については、総務委員会の報告として承認された旨確認があった。

2) ICD 専門委員推薦の件

議長から、厚生労働省より ICD に関する専門委員について資料の通り推薦依頼が届いており、渡辺重行先生（筑波大学循環器内科）を学会として推薦したい旨報告があり、承認された。

3) 疑義解釈委員会委員推薦の件

議長から、日本医師会より疑義解釈委員会委員について資料の通り推薦依頼が届いており、慣例により健保対策委員長の和泉徹理事を推薦したい旨報告があり、承認された。

4) 日本医学会評議員等選出の件

議長から、日本医学会より評議員等について資料の通り推薦依頼が届いており、評議員として小川聡理事、連絡委員として和泉徹理事、用語委員として山岸正和理事、用語代委員として渡辺重行先生を学会として推薦したい旨報告があり、承認された。

5) 理事会日程確認

議長から、2008 年度～2009 年度の理事会は資料の日程で予定されていることが報告された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2008 年 6 月 27 日

社団法人 日本循環器学会 2008 年度第 1 回理事会

(署名)

(捺印)

議 長 小 川 聡

議事録署名人 堀 正 二

同 北 徹

(以下余白)